

奥秩父の笠取山

県連沢ネット山行

2015年7月26日(日)

K 籐

初級者が上級者の力を頼りに難しい沢を登るのでは無く、自分達が主体となって計画・準備を行い沢山行をしようという趣旨で、県連・沢ネットの7月沢山行は上級者パーティとは別に、初級者パーティは別コースで行う事となった。ただし、万一の時に連携が取れる様に上級者パーティの近くの山域で奥秩父・笠取山の一之瀬川・水干沢とした。本来は6月に実施する予定だったが、悪天候で中止となった為に再度7月に計画した。

県連・沢ネット担当理事の鈴木さんから「水干沢は、難しい滝は無く、ルートを間違えない事がポイント」とアドバースを頂いていた。

7月26日の山行当日は、さいたま市の最高気温が体温より高い36.9℃だったが、私たちにとはとても涼しい山行でした。朝4時30分に、YKさんに車で迎えに来て頂き3人で奥秩父・笠取山の登山口である、一之瀬高橋の作場平に向かいました。YKさん

んは3時起きだったそうです、本当に御世話になりました。作場平から笠取小屋に向かつて登山道を15分程歩き、一之瀬川を渡る木の橋から入渓するのが一般的だが、私たちは作場平から直接入渓し遡行を始めた。ガイドブックでは「水量が乏しく、のどかな沢のハイキング」と説明されていたが、今日は水量が多かったのか、深い所もあり歩き易い所を探しながら行った。

登山道を歩けば15分のところを1時間以上掛って歩き、登山道(作場平→笠取小屋)が横切る木の橋で最初の休憩、沢は涼しいが数m離れた登山道のベンチは蒸暑い。

初級者の我々には、遡行図から現在位置を知る事は難しいが、今回は登山道を3回横切るので良い目印になり助かる。2回目の登山道(一休坂

、馬止)を横切ったあと、右の順で枝沢が合流するはずだが良く分からなかった。

しかし、奥に滝があるスモウトリ沢が左から合流した地点は、インターネット情報で写真を見ていたので分かった。順調に登っている事を確認できて安心した。その後、水干沢と黒エンジュ沢の二俣に着。ここもインターネット情報で写真を見ていたので間違える事無く、左に進む(便利な時代になった)。

その後、3個目の分岐のウタノ沢出合を右に行く、ここは水量がウタノ沢2…水干沢1とガイドブックに書かれているが水干沢の方が傾斜が緩いので気が付かずに進んでも水干沢を登っていたらう。

予定では水干(多摩川の最初の一滴)まで登る事になっていたが、3回目の登山道(笠

取小屋（将監峠）に出会った所で、みんなで相談し遡行を終了し、別行動の上級者組・泉水谷パーティのリーダー鈴木さんに連絡を入れた。

ここは携帯電話の圏外だったが、下山途中で携帯電話の電波が届く場所があり、「泉水谷パーティはすでに下山しました」と返事があった。

遡行終了地点で沢靴を洗い、軽登靴に履き替え登山道までの約7mの斜面を熊笹にしがみ付いて這い上がる。そこから、ほぼ水平な道を西に向かい休憩したくなった頃に笠取小屋が突然現れる。小屋の前にはオフロード四輪駆動の軽自動車が二台あった。登山者の気持になって頂けるのなら見えない所に駐車して欲しいと思った。

笠取小屋から、泉水谷パーティが登った大菩薩を眺め、

作場平登山口へ大変良く整備された登山道（一休坂ルート）を下った（私はヤブ沢コースを希望したが却下された）。

いつも「下山は慎重に」と気持を引き締めるが、沢登りの下山は『特に』だ。せっかく無事に沢を登ったのに、下山で転んで怪我をしたら格好悪い。登山道の勾配が緩くなつて、朝最初に休憩した一之瀬川を渡る木の橋に帰着。

ここから、今日歩いた沢を右手に見ながら、「こんな近くに登山道があったんだ」「最初は結構水量が多かったんだ」などと思い出しながら作場平の駐車場に無事下山。

車に乗り「道の駅たばやま」まで行く。待っていてくれた鈴木さんに無事下山を報告（下山後ここまで携帯電話はつながらなかったのだ）。

沢は上流に向かって枝分かれするので、分岐で間違うと予定外の方向に行ってしまう。「〇〇沢・F〇」なんて看板がある事は少なく、遡行図を頼りに登るのは不安があった

が、今回はインターネットに写真付の山行報告が多くあり、要所の景色を覚える事が出来た。また、登山道3ヶ所の横断部分は、貴重な道標になった。先輩から『沢の分岐があったら、必ず全員で遡行図・地図と照らし合わせ現在位置の確認をする』と指導された

事も極力実践したが、「これが一本目の枝沢かな?」「さっきの滝の上で一本あったじゃない!」なんて会話を交わしながらも、なんとか迷わず無事生還できた。

リーダーのYKさんは「危険な所は無く、綺麗なナメと、楽しく登れる小滝があり、初

級者向きに最適な沢でした」、MUさんは「沢は涼しくて、綺麗な写真もいっぱい撮れて、とっても楽しかった」とみんな大満足。

最終部分を省略したものの、ともかく無事に下山できて私も大満足でした。ただ、YKさんには早起きさせ一人で運転させた上に、帰りの車中では助手席でウトウトしてしまい、本当にごめんなさい。

